



## 第13回例会報告 \*通算例会回数4083回目\* (10月14日 於 今治商工会議所2階 大会議室)

## 【 出 席 報 告 】

・会員数 54名  
 ・当日出席率 83.67%  
 <欠席会員>阿部、平田、小堀、楠橋、宮道、西本、田中、八木(正)  
 [免除会員] 檜垣(巧)、村上  
 <9/30欠席補填> 欠席補填者0名…メークアップしなくても、個人の出席率には影響しません。

◇**会長報告・出席優秀者表彰**:今年度は15回～29回の方の表彰を行いました。(ご欠席の方は、後日改めて表彰)

<29回>渡邊道信会員<28回>吉良敏彦会員<26回>大澤正尚会員・渡辺易廣会員<25回>尾越優会員  
 <21回>近藤正人会員<20回>久米操会員<19回>西信正男会員<18回>冠康秀会員<17回>重松宗孝会員  
 ・矢野暢生会員<16回>吉田透会員<15回>菅主浩会員

◇**幹事報告**・例会終了後、大会議室にてパスト会長会を開催いたしました。

◇**親睦活動委員会・お誕生日スピーチ・桑森ひとみ会員**:毎日楽しく、ストレスためずに生活していくということを日々の目標にして生きるのが長生きの秘訣ではないかと最近思っています。また、違う目標が見つければその時にお話しさせていただくということで、よろしく願いいたします。

◇**国際奉仕委員会・【次週10月21日の例会卓話者原ゆかり様について】**

前回(2015年10月22日)とは違うテーマでの卓話です。是非皆様ご参加よろしく願いいたします。

日テレNEWS24「村人への恩返してNGO設立 原ゆかりさん「寄付から卒業」し持続可能なモデル実現へ 10年の軌跡」<https://news.yahoo.co.jp/articles/70aef2a30ac88f6d7f7f9d4c8c2f2173db7e43e0>で取材内容が記載されていますので、ご参照ください。

## 創立記念例会

◆**重松宗孝会長『横井時雄氏秘話』**:何故、今治に四国で初めてのRCが誕生したのか?これにはキリスト教が関係しているという話で、明治期における今治の綿織物業の発展とキリスト教との関係は色々と発表されています。▼明治6年キリスト教が解禁され、今治にも殖産興業の波を起こそうとする地元の先駆者が活発に活動し、それにキリスト教が呼応しました。明治9年、宣教師アッキンソンが松山で行った講話を聞いた今治の実業家増田氏が彼を今治に招聘しました。明治11年には増田氏、柳瀬義富氏を含む約40名が「愛隣舎」を設立し、常設の会堂を創設して定期集會を開くようになりました。今治RC創立へ関係した偉人達でも最年長の柳瀬義富氏は、興業舎の経営者で48歳にして今治経済界のリーダーであり、その影響は大きく、その当時の今治の実業家から多くの入信を得てゆきます。▼同志社英学校を卒業した横井時雄氏は、卒業三ヶ月後に今治に赴任し、明治12年四国初のキリスト教会を設立、更に明治17年今治青年会が組織され、特に波止浜の伝道に力を入れ、今治の実業家たちは西洋文化に対する知的関心からキリスト教に接近し、次第に宗教的関心も進化させ、この時期今治教会の受洗者は爆発的に増えました。その後キリスト教徒を中心に今治経済界は発展を遂げ、大正時代には「四国のマンチェスター」と呼ばれる商工都市を築きます。そして昭和8年日本RCガバナーでクリスチャンの村田省蔵氏と住友の三村起一氏からクラブ結成の勧誘を受け、三村起一氏と二代目会長光藤香吉氏との親交等、いくつかの好条件が重なり、翌年今治RCが設立されました。▼戦時色が強まる中でも活動を続けていましたが、ついに昭和15年9月5日、解散宣言を出すことになり、その後昭和20年9月に木曜会の名前で復活します。また今治教会の樁牧師を中心に「アメリカの事情を聞く会」を持ったのが始まりというのもキリスト教との強い繋がりを感ずります。▼時は流れ、今治RC創立50周年事業では、横井時雄氏の甥、徳富蘆花氏(小説「不如帰」作者)の言葉「伊予の今治、今治は世に忘れられぬ追憶の郷である」が書かれた石碑をふれあいマリン広場に寄贈しました。

(写真:丹下健三氏設計による石碑)



## 次回例会(10月21日)

【 国際奉仕委員会アワー 原ゆかり様卓話 】

<会員誕生日祝> 八木 正史氏 (10/22) 八木 伸樹氏 (10/23)  
 <結婚記念日祝> 光藤 廣司氏 (10/22) 岡田 昌平氏 (10/22)

[ 俣屋 ]